

陳情番号	陳情第6号
件名	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンに関する陳情
受付年月日	令和5年6月1日
回付委員会	経済環境委員会
<p>(陳情要旨)</p> <p>私は岐阜市の中心部に住んでいるが、高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン（以下「マラソン」という。）について意見がある。</p> <p>あたかも、岐阜市民全員がこのマラソンを喜んで迎えているかのようなマスメディアなどの報道であるが、市内中心部に住む者からすれば、たとえ1日とはいえ、前日のヘリコプターの騒音、当日朝8時頃からのヘリコプターの騒音に加え、自転車も含めた交通規制により市内中心部の道路が通行できないといった被害に遭っている。日曜日の開催ということもあり、買物などに行かなければならない市民が、迂回や足止めを食う。とりわけ、金華橋通りが長時間にわたって通行や横断ができなくなり困っている。</p> <p>一方で、マラソンを楽しむにしているランナーや市民もみえることから、マラソン自体を否定するものではない。</p> <p>そこで、持続可能な大会にするために2つの提言がある。どちらも実現可能な意見であると考えたい。</p> <p>1つ目は、コースを今よりも増やすべきである。現在はハーフマラソンコースと3キロメートルマラソンコースの2つのコースだけである。ハーフマラソンコースでは、スタートから4分の1も行っていない地点で、既にばてて歩いているランナーが結構見られる。明らかに本人の体力に見合っていないが、3キロメートルコースでは不満なのであろう。最低でも、あと2つのコース、例えば6キロメートル、12キロメートルのコースを設けるべきである。あくまでマラソン大会であり、ウォーキング大会ではない。</p> <p>2つ目は、コースを変更すべきである。このマラソン大会が開催された2011年から一度もコースが変わっていない。長良川競技場から市中心部を経て、古栄のよい場所を走っており、これでは市外から参加するランナーが誤解してしまう。</p> <p>そこで、例えばハーフマラソンコースで、発着点は同じとしても、現在のようにな進して金華橋通りに行くのではなく、北進して岐阜市の北部を走る。増やしただけのコースも岐阜市の様々な場所を走る。つまり、見栄えのよい場所だけを見せない。中心部から少し郊外に出ると、道路のアスファルトがひび割れていたり、交通量が多いのにガードレールがないなど、問題がある場所がたくさん存在する。市内中心部と郊外（周辺部）で、道路整備に格差があるが、マラソンコースになれば、改善、改修すべき理由となる。</p> <p>そのため、コースは適宜変えるとよい。郊外に住んでいる市民には道路が改善、改修される利点がある。また、市内の様々な場所を走ることで、市外から参加するランナーに地方都市の郊外（周辺部）が抱える問題を気づかせることができるといえる。とりわけ、東京、大阪、名古屋など大都市に住んでいる人が、バス停を見かけないがバスは通っているのか、スーパーを見かけないが買物はどうしているのだろうか、壊れかけた空き家が結構あるが、これが地方都市の現実なのかといった気づきを得られ、貴重な体験となる。</p> <p>岐阜市も、市内中心部の見栄えのよい場所だけを見ている限りでは、東京、大阪、名古屋などの大都市とあまり変わらないかもしれないが、それでは都会の人は誤解する。ありのままの岐阜市を知ってもらえるような大会にすべきである。長良川と金華山を見せるなどは言わないが、そこだけが岐阜市ではないはずである。</p> <p>岐阜市はこのマラソンに関係している1団体として、運営について提案できるはずである。特定の区域の住民だけが毎年被害を受けており、市外からのランナーに誤解を与えて帰すようでは、持続可能な大会とは言えない。今のままでは実際に困っており、岐阜市議会として何らかの働きかけや提言を行うよう陳情する。</p>	
結果	令和5年6月23日 内容を了知する。